



校長室より



令和6年 8月22日

No.14

夏休みも終盤 少しずつ二学期の準備をしていきましょう

パリオリンピックでは日本選手が躍動し、金メダル20個、銀メダル12個、銅メダル13個と素晴らしい結果を残してくれました。夏休み中だったので、夜更かししたり、早朝からテレビをつけたりして応援した人もいることでしょう。最後まであきらめずにがんばる姿に元気をもらいましたね。

一方で、国内では8月8日（木）に、宮崎県の日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、南海トラフ臨時情報（巨大地震注意）が発表され、和歌山県内に緊張感が走りました。一週間内では何もありませんでしたが、学校でもいざという時のための備え、防災対策に努めていきたいと思います。

本校は、和歌山県唯一の病弱教育を行う特別支援学校であり、和歌山県内の病弱虚弱教育の研究推進とその振興をはかるために、和歌山県病弱虚弱教育研究協議会（県病研）の運営に努めています。この夏、研究会が開催した研修会を紹介します。

8月20日（火）、美浜町中央公民館において、研究会と本校の実践交流会のコラボで、東京よりNPO法人地域ケアさぽーと研究所理事長の飯野 順子（いいの じゅんこ）氏をお招きして、「障害の重い子どもの授業づくり」について講演をしていただき、グループ座談会を行いました。授業の3Sとして、子供がわかるシンプルな展開、内容を受け止めイメージを作りやすいスリムな内容、子供の心にストレートに届く言葉かけを心がけながら、スモールステップで計画的に進めていきたいと思います。



連日となりましたが、8月21日（水）、美浜町中央公民館にて、夏の研究会として、和歌山市のたいようファミリークリニック院長の古宮 圭（こみや けい）氏に、「慢性疾患を抱えるこどもの支援について」お話をいただきました。子供たちの共通した悩みに寄り添い、関係者と連携を図りながら親身に支援をしていくことが大切であることを改めて確認できました。



二つの研修会ともに、二学期からの活動に向けて力をいただく学びとなりました。



生徒会が育てたひまわりが
夏休み中に花を咲かせました